

**2010年3月期（2009年度）決算 事業報告会資料**

---

**2010年6月4日**

戸田工業株式会社  
戸田工業グループ

# 目次

## □ 2010年3月期(2009年度) 事業の業績(連結)

2010年3月期 連結業績	4
業績の特徴	5
セグメント別売上高	6
2010年3月期 貸借対照表科目	7
貸借対照表科目の特徴	8
主な連結子会社の状況	9
設備投資・研究開発・減価償却	10
業績の急速な回復	11

## □ 中期経営計画(2010～2012年度)

経営方針	13
業績目標	14
キャッシュフローの見通し	15
リチウムイオン電池材料市場の将来展望	16
正極材料の商品群	17
世界における生産体制	18
既存事業への新規商品の投入、拡販	19

2010年3月期（2009年度） 事業の業績（連結）

---

# 2010年3月期 連結業績

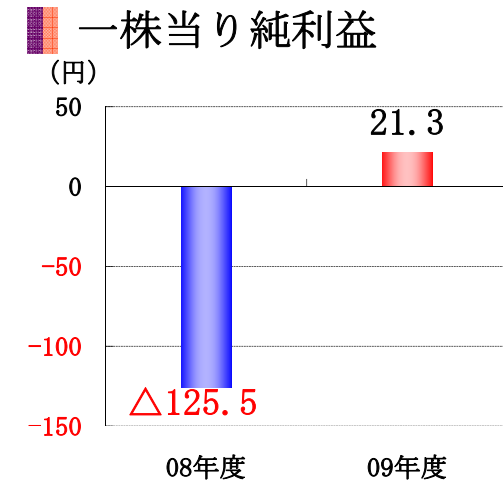
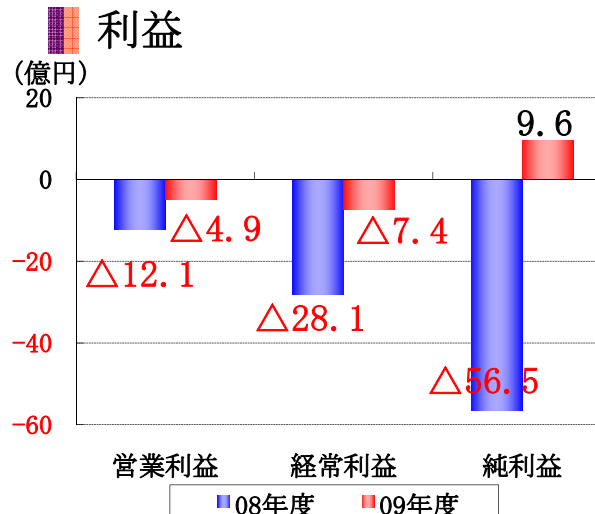
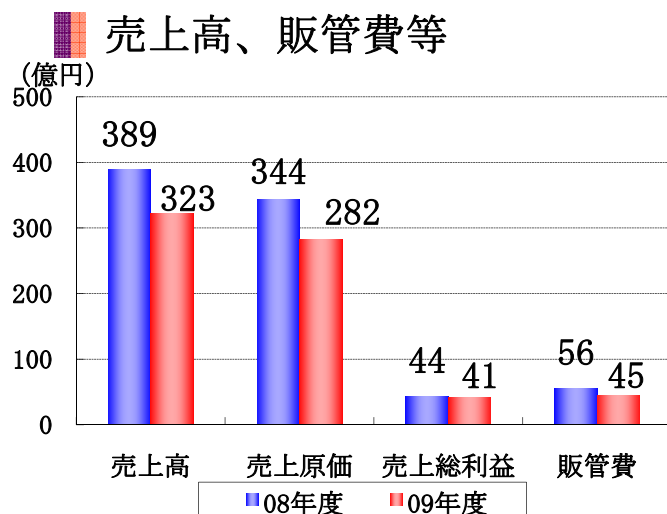
(単位：百万円)

損益	09年3月期	10年3月期	前年比
売上高	38,963	32,320	83%
売上原価	34,478	28,219	82%
売上総利益	4,484	4,100	91%
販管費	5,695	4,594	81%
営業利益	△ 1,211	△ 493	-
経常利益	△ 2,815	△ 741	-
当期純利益	△ 5,658	964	-
1株当たり 純利益 (円)	△ 125.51	21.39	-

# 業績の特徴

## 特徴

1. 販売数量につきましては、上期において金融危機に伴う景気後退から販売数量が大きく低迷していましたが、下期には回復して通年では昨年並みの販売実績が確保されました。しかし売上高につきましては、コバルト価格等に連動した電池材料の販売価格が下降したため、前期比△17%の減少となりました。
2. 材料費の低減、材料ロスゼロにする活動、生産体制の効率化などに徹底的に取り組みました。その結果、固定費の約1割を削減しました。また、管理販売費につきましても、人件費迄に及ぶ徹底的なコストの削減に取り組みました。これらにより、売上高の減少率の17%以上に、売上原価の低減率△18%、管理販売費の低減率△19%を達成することが出来き、コスト構造を大きく改善することが出来ました。
3. 以上より、営業利益は△4億9,300万円となり、昨年度に比して約7億円改善されました。経常利益につきましては、為替差損益が大きく改善した事と持分法適用会社の投資損失が縮小したことで△7億4,100万円と、昨年度より約21億円改善しました。当期純利益は、北米子会社の株式を一部売却したことにより3期ぶりに黒字化し、9億6,400万円の利益となりました。



# セグメント別売上高

(単位：百万円)

セグメント	09年3月期	10年3月期	前年同期比	包含事業
機能性顔料事業	12,621	12,105	96%	電子印刷材料、磁気記録材料、顔料、ダイオキシン抑制触媒/コンパウンド など
電子素材事業	19,438	13,328	69%	電池材料、電磁環境部品/材料、磁石/磁石材料、電子印刷部品、半導体装置、塩化ビニール安定剤 など
エンジニアリング事業	6,904	6,876	100%	環境エンジニアリング、土壌浄化用触媒 など
合計	38,963	32,310	83%	

1. 機能性顔料事業は、上期は世界同時不況の影響を被っていましたが、下期には急回復し通年では前期比4%の減収に止まりました。
2. 電子素材事業は、数量的には前年並みの売上となっていますが、メタル価格の低下に伴う電池材料価格下降の影響で、前期比31%の減収となりました。
3. エンジニアリング事業は、業界の設備投資意欲が戻らない中、受注活動を強力に推進し、前年並みの売り上げを確保しました。

# 2010年3月期 貸借対照表科目

(単位：百万円)

貸借対照表科目	09年3月期	10年3月期	増減
流動資産	23,357	23,512	155
固定資産	32,323	32,186	△ 137
流動負債	22,180	21,144	△ 1,036
固定負債	12,867	12,681	△ 186
少数株主持分	383	383	0
株主資本	21,153	21,968	815
総資産	55,680	55,699	19
現金/同等物	6,967	6,583	△ 384
キャッシュフロー	587	△ 356	△ 943
ROE (%)	△ 26.7	4.4	31.1

(注) ROEは株主資本合計に対して計算したものです。

## 貸借対照表科目の特徴

1. 前年度に対して販売量が横這いであったこと、設備投資を抑制したこと等により、流動資産、固定資産には大きな変化は有りませんでした。
2. 流動負債は、設備投資の抑制と富士化水工業の支払手形の減少により、△10億3,600万円減少しました。
3. 株主資本は、北米の子会社の株式を一部売却したことにより、8億1,500万円改善しました。併せて自己資本比率も2.2ポイント改善して、38.6%となりました。
4. 前期比のキャッシュフローは9億4,300万円減少していますが、当期純利益につきましては3期ぶりに黒字転換し、ROEは4.4%と33.1ポイントもの改善がなされました。

# 主な連結子会社の状況

(単位：百万円)

会社名	売上高		経常利益		決算期
	09年3月期	10年3月期	09年3月期	10年3月期	
富士化水工業株式会社	11,111	7,044	△ 203	71	12月末
戸田マテリアル株式会社	2,755	2,760	21	160	3月末
戸田ピグメント株式会社	1,587	1,529	2	104	3月末
戸田工業ヨーロッパ GmbH	1,449	849	△ 517	△ 3	3月末
戸田塑磁材料（浙江）有限公司	668	664	32	96	12月末
戸田アメリカ Inc.	744	682	△ 6	△ 42	3月末
戸田アドバンストマテリアルズ Inc.	1,889	877	△ 271	△ 734	12月末

## 【 増益 】

戸田マテリアル株式会社、戸田ピグメント株式会社、戸田塑磁材料（浙江）有限公司は、売上高は横這いですが増益を達成しています。

## 【 減収増益 】

富士化水工業株式会社、戸田工業ヨーロッパ GmbHは、減収ながら利益を大きく改善させています。

## 【 減収減益 】

戸田アメリカ Inc.、戸田アドバンストマテリアルズ Inc. は、景気後退の中で大きく減収減益となりました。

## 設備投資・研究開発・減価償却

(単位：百万円)

	09年3月期	10年3月期	前年同期比
設備投資額	5,506	1,757	32%
研究開発費	1,933	1,564	81%
減価償却費	2,258	2,221	98%

1. 設備投資の主な内容は、リチウムイオン電池材料の生産設備です。経営状況に鑑み、必要最低限の投資に絞り込みました。
2. 研究開発費は、新規事業の開発に重点配分しています。試験方法等を最適化するとともに、材料に関わる経費の圧縮を図った結果、前期比19%の効率化を達成しました。
3. 減価償却費につきましては、新規設備投資は抑制したものの、前期までに実施した設備投資の影響で、前期比2%の減少に止まりました。

# 業績の急速な回復

## 売上高の回復

金融危機後の景気回復が世界的に浸透して来た中で、特に第4四半期には電気自動車向けのリチウムイオン電池用正極材の販売がスタートし、売上高が約15億円程度大きく伸びました。

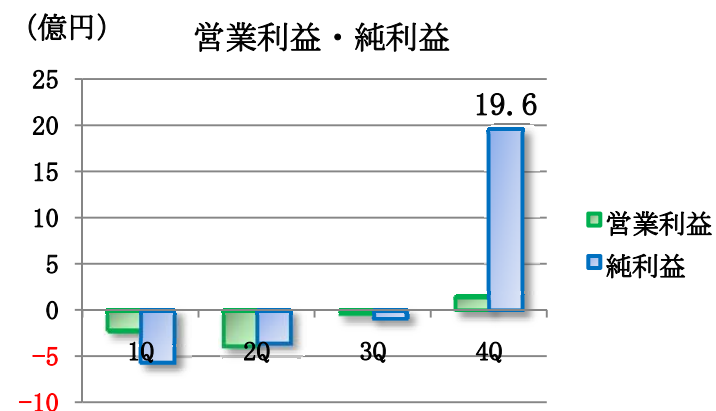
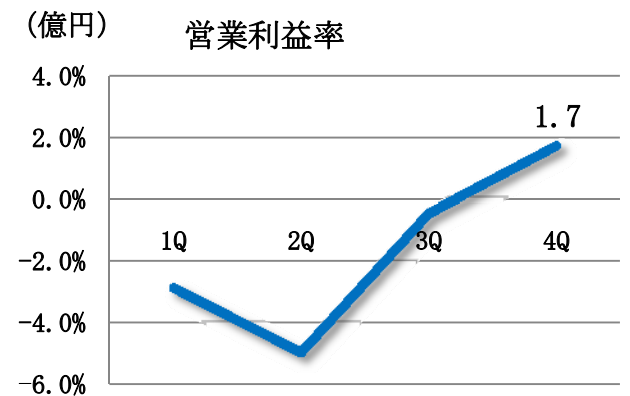
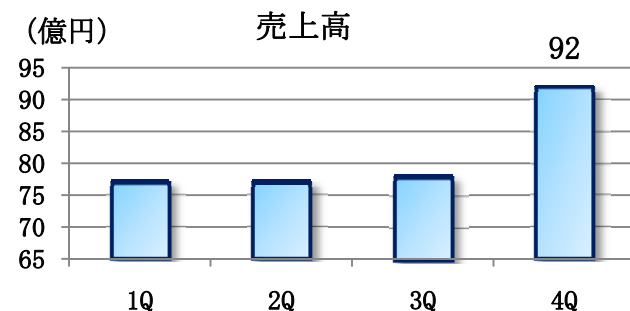
## 営業利益の回復

売上高の回復と管理販売費や製造固定費の徹底した削減により、第3四半期から営業利益率が上昇に向かっています。特に第4四半期の営業利益率は1.7%へと大きく改善しました。

次年度には、北米子会社を持分法子会社化しますので、営業利益率の更なる改善が見込まれます。

## 営業利益・純利益の改善

第4四半期には営業利益が黒字に転換しました。また、戸田アメリカInc.の株式の一部を伊藤忠商事に売却し、純利益においても黒字化を果たしました。当期純利益は9億6,400万円となりました。



# 中期経営計画（2010～2012年度）

---

2010年6月4日

戸田工業株式会社

1. 電池材料事業の成長と強固な事業基盤の確立を図る。

2. 既存事業分野への新規商品の投入による事業活力の増強を図る。

3. 事業体質と事業展開の効率化を強力に推進し、  
財務体質を始めとした経営体質の一層の強化を図る。

4. 経営目標のレベルを先ず着実に達成することを目指す。

【 経営目標レベル 】

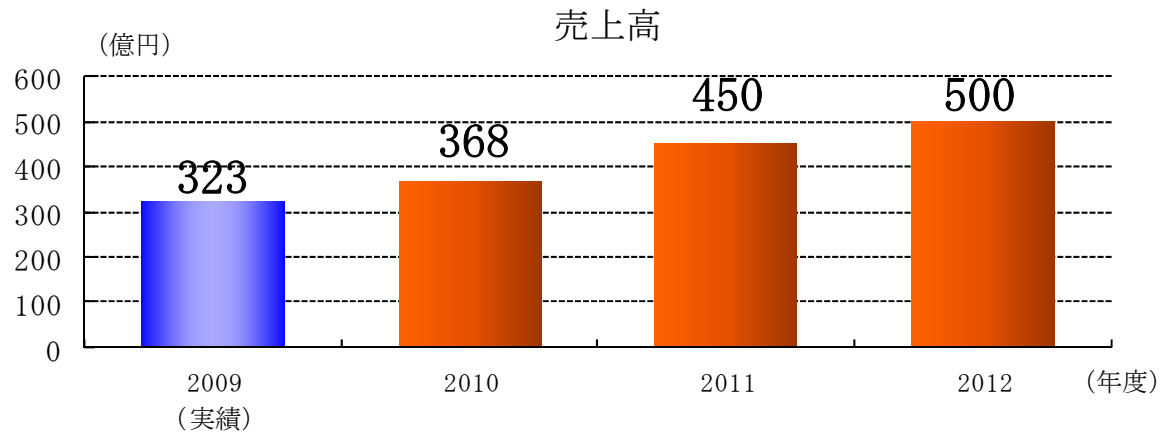
売上高 500億円

営業利益率 5%以上

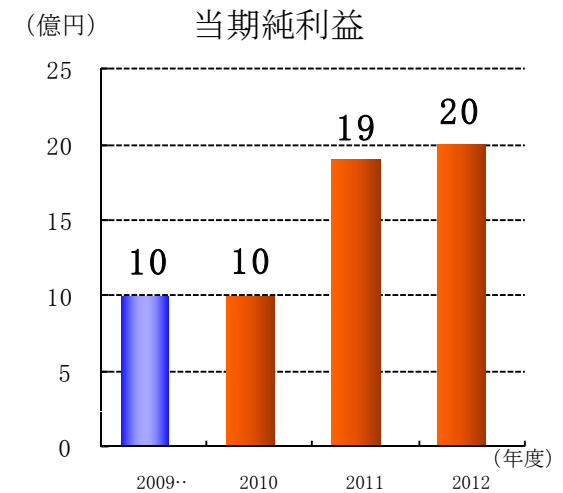
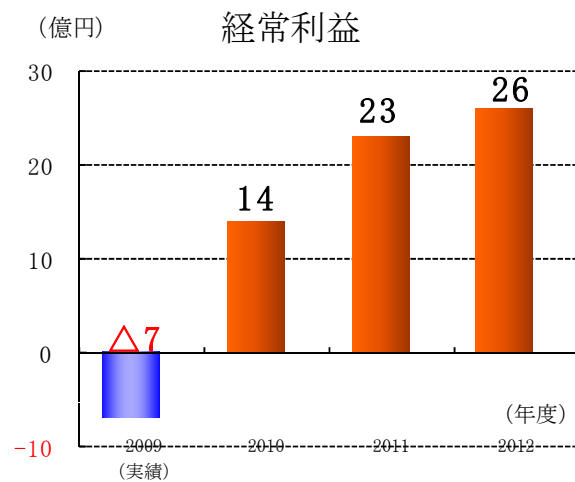
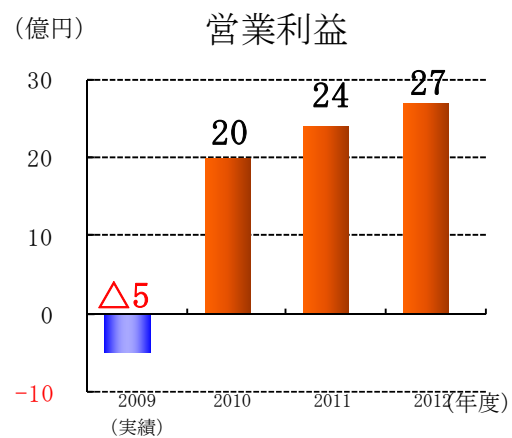
# 業績目標

売上高 500億円、営業利益率 5%以上を確実に達成する。

## 売上高

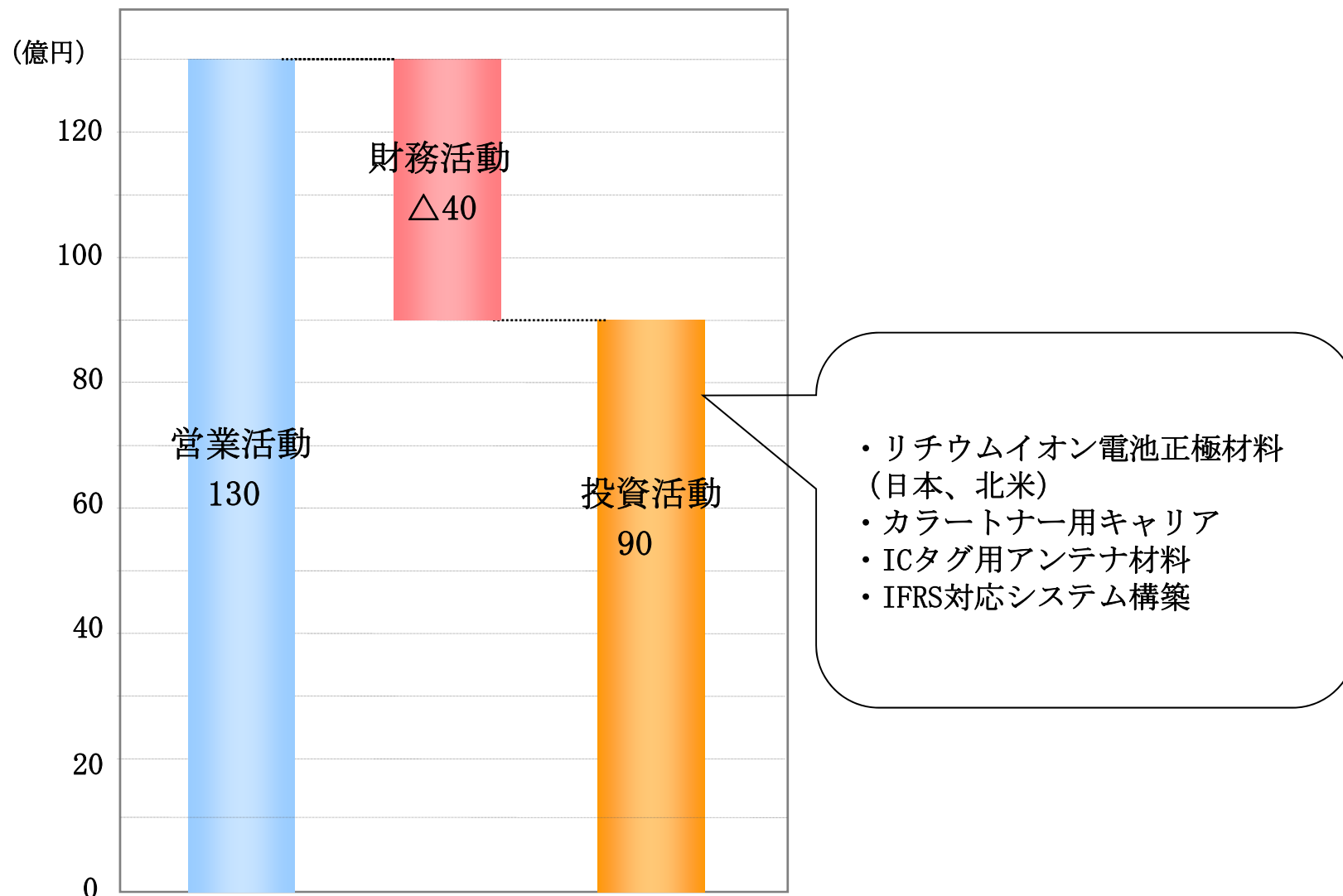


## 利益



# キャッシュフローの見通し

営業活動によるキャッシュフローの改善により、事業推進に向けた投資活動を確実に  
行うと共に、自己資本、財務体質の改善を図ります。

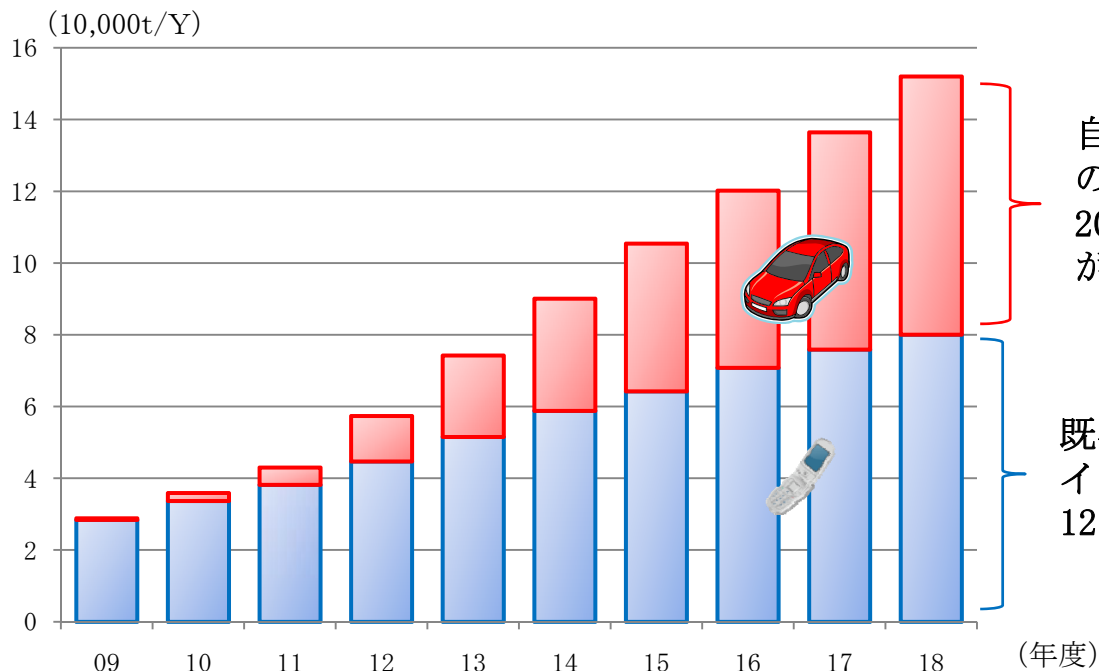


# リチウムイオン電池材料マーケットの将来展望

## リチウムイオン電池の市場は成長を続けます。

- (1) 電気自動車(EV・HEV)へのリチウムイオン電池の搭載が始まりました。
- (2) スマートグリッド、太陽電池等、社会インフラへの導入も一斉に検討、試験が始まっています。
- (3) 総合すると、リチウムイオン電池正極材料の市場は、年率20%程度の成長が期待されます。

## リチウムイオン電池正極材料マーケットの成長



自動車用リチウムイオン電池の市場が新たに生まれます。2018年には、45%程度の市場が見込まれます。

既存のモバイル用リチウムイオン電池の需要も、年率12%程度で伸び続けます。

(IT総研資料より当社で換算)

# 正極材料の商品群

電気自動車、ハイブリッド電気自動車向けのニッケル系、マンガン系、三元系材料に重点を置いて推進して行きます。

商品	用途	特徴
ニッケル系 LNCA	電気自動車 ハイブリッド電気自動車 電動工具 大型電池（スマートグリッド）	ニッケル系では、当社のシェアはNo.1です。電気自動車への展開が既にスタートしています。
マンガン系 LMO	電気自動車 ハイブリッド電気自動車 電動工具 大型電池（スマートグリッド）	コストや資源の枯渇に対して有利なマンガン系材料にも、生産体制を拡充して10年度より本格的な生産をスタートさせます。
三元系 LNCM	電気自動車 ハイブリッド電気自動車 大型電池（スマートグリッド）	三元系の材料については、特許優位性のある高容量タイプの材料を、積極的に展開して行きます。
コバルト系 LCO	パソコン 携帯電話等	従来の主力商品であったコバルト系材料からは、経営の軸足を移して行きます。

# 世界における生産体制

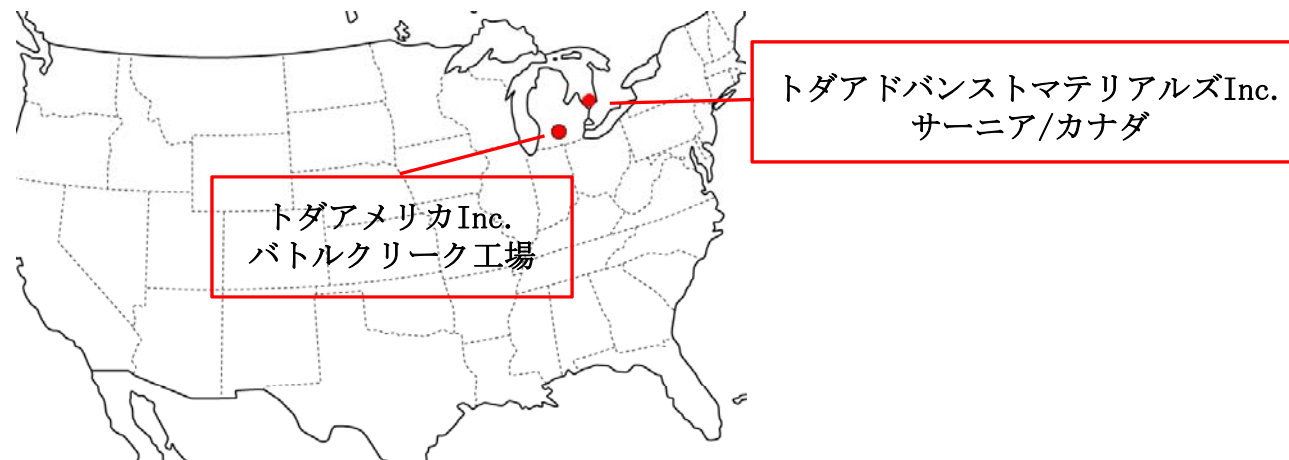
## ■ 日本

コバルト、ニッケル、マンガン、三元系トータルで、2012年には5,100 tの生産体制を構築します。



## ■ 北米

ニッケル系、三元系トータルで、2012年には1,400 tの生産体制を構築します。

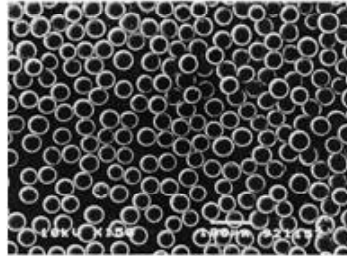


# 既存事業への新規商品の投入、拡販

## 新規商品

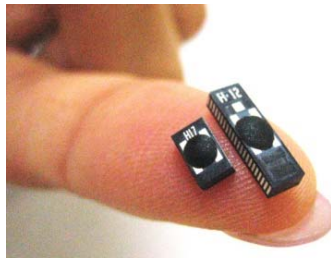
## 取組

トナー用  
キャリア



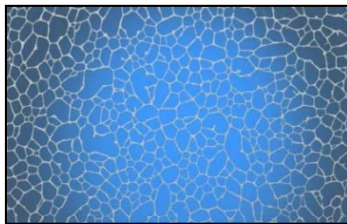
真球状で磁力の強力なトナー用キャリアMRCは、先端を走る高精度印刷に最適なイメージング材料です。益々求められる印刷の高品質化に向けて、MRCの活躍分野を広げて行きます。

ICタグ



ICタグは、あらゆる分野への応用が急速に進んでいますが、金属物表面への適用は難しいのが現状です。そこで当社では金属表面への適用が可能なICタグを開発し、商品管理におけるトレーサビリティの向上等の用途に向けて、ビジネスを開発して行きます。

ナノ銀



ナノスケールの銀は、特徴的で有能な性能を有しています。当社の優位性のある生産技術で電磁遮蔽、光学フィルター、太陽電池用電極材料用途に向けて新商品を開発し展開して行きます。

### 将来予測について

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる結果となりうる事を、ご承知おき下さい。

### お問い合わせ先

戸田工業株式会社

常務取締役 経営企画本部長

高橋 精一

**TEL 03 - 3433 - 2411**

**FAX 03 - 5404 - 7244**

**E-mail: [Webmaster@todakogyo.co.jp](mailto:Webmaster@todakogyo.co.jp)**